

「絵と画人」との出会い

(何故絵を描くのか?)

近藤征治

1. 花莫産意匠図案者、祖父・近藤篤次郎の影響……幼いころより花莫産に祖父の原画が描かれた作品に囲まれて育つ（絵画花莫産は貿易で海外流出、内国万博出展等、詳細は福岡県の蘭業誌に掲載）。
2. 叔父・近藤茂の出征前に描き遺した大量の水彩画をながめて育った幼少年時代。
3. 父と従兄弟・宮原勝（当時・中学教頭・二科会）にいつもスケッチを勧められる。
4. 兄・近藤篤重の褒め言葉。
 - ✎兄は褒め上手だった。私の描いた絵を必ず褒める、少年時代に久留米のブリジストン（石橋）美術館へ度々連れて行ってくれた……絵を観ながらこんな絵を描けという。地元の画家、「青木繁・坂本繁二郎」に感銘、またセザンヌ・ピカソの絵に感動。
 - ✎毎日、学校から帰宅後は絵を描くことが習慣となる（2階の窓の明かりの中にて）。
 - ✎また、裏庭の石灯笼と老梅木が気に入り、同じ絵を小中学時代、何年も続けて描く。
5. 小学校時代、与田元二先生（現代美術協会会員）の指導を受ける。
 - ✎小学6年の時の消防出初式において、消防団長 鶴岡重光（父と従兄弟）より感謝状と賞金をいただき、その賞金で買った画材を地域の子供達に配り、スケッチ会を行う。これが評判になる。
 - ✎小学校・校長室前に自分の絵だけが永年飾られる……いつまでも心に残る。
6. 花宗中学校時代～永年に亘り、松永伍一先生（当時、教員～詩人・民俗学・評論など）の指導を受ける。当時、油絵「筑後平野」を描く。550名の生徒の中、特別に3枚絵を描かされ、小学館主催の全国児童絵画コンクールで佳作、本に掲載される。
7. 1968年結婚を機に本格的に始める。大阪・堺市展などに出展（途中15年位は仕事の都合で絵筆をとらず）。
8. 富田溪仙の沢山の日本画を所蔵する西上昇氏（奈良県在住、大正不動産・専務）との出会い。蔵の中の本物に感動（数回観賞）。
9. 41歳の時、椎間板ヘルニア手術のため東京医科大学に入院。そこで三上巴峡画伯「日展会員（日本画）」に出会う。当時の日展理事長・奥田元宋氏の弟子にならないかと誘われる。（三上氏と奥田氏2人は広島県双三郡八幡村から同郷の先輩・児玉希望画伯を訪ね内弟子となる。日展の佐藤太清氏も1年後内弟子となる）……高年齢であったため断る。
10. 丸木位里・俊 著「絵を描く人に贈る遺言」と丸木美術館に刺激を受ける。
11. 松永伍一先生との再会を機に再び指導を受ける。「絵は詩である」の持論、松永先生のご紹介などで多くの文人・画人・芸能人に出会い、交流により多くの刺激を受ける。
12. 陶芸家・秋山一夫先生に出会う（人間国宝を断る。ボストン美術館に作品常設）。
13. 窪島誠一郎と水上勉親子と松永先生、野見山暁治そして信濃デッサン館と無言館の不思議なご縁をいただく。
14. 平成3年宮本佳則画伯（S12年、武蔵美）と出会う……絵心と遊び心を学ぶ。また、宮本先生を通じて荒木義太郎画伯や多くの画人と出会う。

15. 宮本先生を通じ佐久間宗画伯と出会う……佐久間先生の「絵を描く哲学」に共感。
16. 二紀会重鎮（評議委員）北原悌二郎先生に出会う（兄・篤重との不思議な関係）。
（北原先生宅を訪ねて宮本先生を紹介）二紀会常任理事の小西保文先生に出会う（新座美術協会展に毎年出展された。「只見」の絵を批評していただく）。
17. 新座美術協会にて三軌会会員の丸田記久子先生に出会い三軌会出展を薦められる。
18. 大野忠男先生の抽象絵画とアイルランド陶芸との出会い。
19. ペルーで30年以上絵画活動されている野口忠行画伯との出会い（松永伍一先生からの紹介により知る）ペルー大使館での個展等、2012年マチュピチュへ誘われる。
20. 高校の先輩・西隈哲夫氏（元・青枢会会員）と画友となる。
21. 現在は地元の新座美術協会において、お世話係事務局などを務める。
22. 公募で三軌会出展（各100号）を決断し、上野都美術館～国立新美術館に展示、2013年、65回記念展・佳作賞、2014年の66回展にて会友に推挙される。
23. 70歳半ば、やっとアートが持つエネルギーの凄さと奥深さを少々理解するに至る。
「青春（わか）」さを忘れず、素晴らしい出会いとご縁を大切にしながら、いつまでも……。